

1. 日時 2019年 10月 4日 (金) 6校時
2. 場所 6年1組教室
3. 単元名 熟語の成り立ち方をおさえて、新しい熟語を作ろう
- 教材名 「熟語の成り立ち」(光村図書6年)
- 補助教材 例解小学漢字辞典(三省堂)

4. 単元目標
- ・ 語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに関心をもつことができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)
  - ・ 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

#### 5. 指導にあたって

##### 〈児童観〉

本学級の児童は男女の仲が良く、明るい雰囲気の中で性別に関係なく協力して学習に取り組む姿が見られる。「書くこと」については作文や学習を通して学んだこと、考えたことを書く活動の際にしっかりと自分の意見を持って書くことができている。「話すこと・聞くこと」についてはグループ学習などで積極的に自分の意見を伝えて意欲的に取り組むことができている。また、仲間に意見を求めて活動を盛り上げることや話すことが苦手な仲間には話しやすい雰囲気をつくるなど意見を促したりすることができるため児童全員が楽しみながら学習を深めることができている。しかし、全体の前で意見・考えを発表することについては苦手な児童が多く、他人任せにして自分では何も考えようとしなないことがある。

熟語については教科書だけでなく学習以外の場において、休み時間に読書をしている児童の姿をよく目にするため多くの熟語を目にしていると考えられる。しかし、「漢字の広場3」において「博識」という熟語の意味がわからないときにその漢字の構成から意味を読み取ろうとする児童は少なかった。このことから児童は熟語の成り立ちについて意識して考えることが少ないと思われる。

##### 〈教材観〉

「熟語の成り立ち」は本を読んでいるときや文章を書くときなど普段から目にする熟語の構成に注目し、その構成の仕組みを考え、分類することで熟語の構造的認識能力を深める教材である。二文字の熟語に関しては四年生で既に(1)似た意味の漢字の組み合わせ(2)意味が対になる漢字の組み合わせ(3)上の漢字が下の漢字を修飾する関係にある組み合わせ(4)「一を」「一に」に当たる意味の漢字が下に来る組み合わせ)についての学習を終えており、ここでは新たに三文字と四文字以上の熟語を学習することになる。熟語の組み合わせ方を学習することは今後新たに学習する言葉・語句の理解を深めるだけでなく、知らない熟語を目にした時にその構造からどのような意味を持つのか推測して判断する力をつけることができると思う。

### 〈指導観〉

本教材では熟語の成り立ち方にはいくつかのパターンがあることをおさえて、「熟語の構造的認識を深めること」と最終的にはその組み合わせ方を利用して新たな熟語を作ることができることから「熟語の成り立ちについての興味・関心を高めること」を目標としている。

一時間目では二字熟語と三字熟語を学習する。まずは二字熟語の成り立ち方を学習して、漢字辞典を使っておさえた後に、「森へ」の中から二字熟語を探してそれぞれの成り立ち方を分類する活動をグループで行わせる。この活動により児童は熟語を構成の面から捉えようとする視点を持つことができる。また、今まで学習してきた教材の中に多くの熟語があることに気づき、熟語への興味・関心を持つことができるだろう。次に三字熟語である。三字熟語はその成り立ち方の多くが「○+○○」や「○○+○」など二字熟語に一文字を加えた場合が多いため、児童には「不○○」「非○○」や「○○系」「○○的」などに合う二字熟語を考えさせる活動を行わせる。この活動が次の時間で自分たちが四文字以上の熟語を作る活動への意欲につながると考える。

二時間目では導入において「威風堂々」を児童に示して身の回りには多くの四文字以上の熟語が存在することを確認して四文字以上の熟語を学習していくことを伝え、四文字以上の熟語の成り立ち方をおさえる。児童は最終的に新しい四文字以上の熟語を作る活動をするのだが急に作ることは難しい。そのためまずは国語の教科書や国語以外の教科書から四文字以上の熟語を探し、語の集まりごとに区切りをつけて付箋に書いていく活動を行わせる。例えば「海水浴客」ならば「海水浴」で一枚の付箋を使い、「客」でもう一枚付箋を使うことになる。この活動により四文字以上の熟語を作るための材料が集まり、後は自由に熟語を組み合わせることで新しい熟語作りが容易にできるようになる。これらの活動はグループで行うことが多いため誰か一人だけ何も考えない状態にはならず、他人任せにすることが少なくなると考える。

### 6. 指導計画（全二時間）

次	時	学習活動と手立て
	1	◎二字熟語と三字熟語に着目して成り立ち方を考える。 ○「森へ」から二字熟語を探して分類させる。 ○三字熟語を考えさせる。
	2	◎漢字四字以上の熟語の成り立ちを考え、新しい熟語を作る。 ○漢字四字以上の熟語を教科書から探し、語の集まりごとに区切る。 ○語の集まりを自由に組み合わせて新しい熟語を作る。
	本時	

### 7. 本時の目標

- ・熟語の構成を理解して関心を持つことができる。
- ・構成を考えながら新しい四字以上の熟語を作ることができる。

8. 本時の展開

	児童の学習活動	指導の留意点	支援と評価
導入	1.前時の振り返り・めあての確認	○前時の学習を思い出させる。	・進んで学習に参加しようとしている。 (発言・状況観察)
	2.自分たちの周りには多くの四文字以上の熟語が存在することを確認する。	○「威風堂々」を板書して自分たちの身の回りには多くの四字以上の熟語が存在することを確認する。	
展開	3教科書 (p.87) を目で読み、四文字以上の熟語の成り立ち方を理解する。	○二字・三字熟語との共通点を確認させ、四字以上の熟語への自信につなげる。 「四字熟語も前回勉強した熟語と大して変わらないよね。」 ○熟語の構成を見るとどのような意味があるのか判断できることに気付かせる。	・熟語の構成の違いを比較して考えようとしている。 (状況観察)
	4 グループで協力して教科書から四字以上の熟語を探し、語の集まりごとに区切りをつけて付箋に書いていく活動を行う。	○活動の進め方を教科書に載っている熟語を使いながら説明する。 例 海水浴客→海水浴+客 ・(児童の反応)「そういえばこれも四文字以上の熟語だったな。」 ・「この熟語はどこで区切れるかな。」	・活動を通して語句の構成の理解を深め、関心をもつことができる。(発言・状況観察)
	5. 語の集まりを自由に組み合わせさせて新しい熟語を作り、短冊に書く。	○できるだけ多くの熟語を作らせて、その意味も考えさせる。 ・(児童の反応)「この熟語と組み合わせると上手くいきそうだな。」 ・「この熟語はたくさんの熟語と組み合わせができるな。」 ・「どのくらい長い熟語ができるかな。」	・四字以上の熟語の構成を理解して熟語が作られている。(状況観察)

ま と め	6.今日の授業で考えたこと・見つけたことを書く。	○ノートに今日の授業で考えたこと・見つけたこと書かせる。 ・(児童の反応)「たくさんの熟語があるけれど、成り立ちを考えれば意味を捉えることができる。」 ・「熟語は意外と簡単なんだな。」	・熟語の構成を理解して関心を持つことができる。 (記述)
-------------	--------------------------	--	---------------------------------

9.授業をみる観点

- ・児童が熟語を作る活動を通して四字以上の熟語の成り立ち方を理解することができていたか。

11.板書計画

児童の作った熟語を貼るスペース

新しい熟語を作ろう

例 飛行+海水浴場  
飛行海水浴場

意味 飛行船の中にある  
海水浴場のこと

熟語の成り立ち  
四字以上の新しい熟語を  
考えよう

威風堂々

四字以上の熟語

(1) 一字の語の集まり  
春夏秋冬 都道府県

(2) いくつかの語の集まり  
海水浴客・・・海水浴+客  
宇宙飛行士・・・宇宙+飛行+士

前回の内容(模造紙)

二字熟語

(1) 似た意味のもの (創造)

(2) 意味が対になるもの (縦横)

12.座席表
